

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙 1) 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 (別紙 2) 参照				R5年度事業内容 (実績)	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
1	Ⅲ	1	(1)	香川大学「防犯パトロー ル隊」との連携事業	市	今後、担い手不足が懸念される地域の健 全育成団体と、活動の場を求める大学等 のボランティアをつなぐことで、持続可 能な視点に立った地域における健全育成 活動の推進を図り、加えて地域の健全育 成団体の見守り力の向上を目指す。	○	○		危険個所点検による安全マッ プの作成において、危険個所の 選定に生かせる防犯の専門知識 や防犯アプリへの登録方法の習 得を行った。 また、学生ボランティアとの 協働により、持続可能な地域の 見守り活動体制の再構築へ向け ての契機となった。	実施地域数	令和 5 年度からの新規 事業のため、実績なし	3地域（櫃紙、二番 丁、木太）	評価 不可	無	地域の健全育成団体と、活動の場を求める大学等 のボランティアをつなぐことで、持続可能な視点 に立った地域における健全育成活動の推進を図 り、加えて地域の健全育成団体の見守り力の向上 が図られた。 今後地域を見守る担い手不足が懸念される中、こ の取組を通じて普段見守りをしていない一般地域 住民の「ながら見守り」を市域全体に浸透させる ことで、地域の見守り活動体制の強化を図ってま いりたい。	少年育成センター		
	V	2	(2)																
2	Ⅳ	1	(1)	エコホテルの利用促進事 業	市	南部クリーンセンターで施設見学、親子 リサイクル工作会、環境パネルの展示、 環境啓発DVDの視聴などを実施する。	○	○		・親子工作会を11回実施。 ・親子見学会を14回実施。	エコホテル利用者数	3,015人	4,077人	A	無	令和5年度は、従前の定員数で開催することがで きた。 令和 6 年度についても、引き続き見学会等の開催 回数や工作内容を見直すなど、利用者数増加を目 標とし、環境学習事業を実施する。	南部クリーンセンター		
3	Ⅳ	1	(1)	伝統的ものづくり夏休み 親子体験教室	市	親子で本市の伝統的ものづくりへの理解 と関心を深め、普及啓発を図ることを目 的とし、夏休みの宿題解決や子どもと大 人が一緒に地域の伝統的ものづくりにふ れあい、学ぶ体験の場にするとともに、 シビックプライドの醸成につながる場を 創出する。	○			夏休みの期間中、市内在学の小 学生親子を対象に、伝統的もの づくりの職人等を講師として、 讃岐のり染、菓子木型、讃岐か がり手まり、組手障子、盆栽及 び香川漆器の体験教室を開催し た。 開催講座 6コース 各午前・午後の2回 （うち、菓子木型については台 風の影響により中止。）	参加者数	270名	224名	B	無	参加者への満足度調査では、調査の開始以来一定 程度の高評価を維持しており、伝統的ものづくり にふれあい、学ぶ体験の場とし、理解や関心を深 めることができた。 本事業は、令和 5 年度をもって廃止とするが、引 き続き、高松市の伝統的ものづくりへの理解と関 心を深め、普及啓発を進めるとともに、人づくり の推進を図る。	産業振興課		
4	Ⅳ	1	(1)	夏休み市場D E自由研究 事業	中央卸売市 場運営協議 会	市場見学等により、生鮮食料品等に触れ る機会の提供、市場の機能や流通シス テム等について学習する。		○		水産物部：せり場・水槽・冷蔵 庫の見学と説明、うなぎ、せり についての講義、お魚クイズ 青果部：せり場の見学と説明、 野菜・果物について講義、野菜 クイズ、ぶどうの食べ比べ 花き部：せり場の見学と説明、 カラーリング体験、フラワアー レンジメント体験、かがわの花 についての講義	参加者数	花き部：7月18日 7：30～10：30 参加人数：9組18人 ※青果部、水産物部、 花き部2回目は新型コ ロナウイルス感染症の 拡大により中止とし た。	水産物部：7月22、29 日 5：45～9：00 参加者数：25組56人 青果部：7月22、29日 6：00～9：30 参加者数：18組39人 花き部：8月18、25日 7：30～10：30 参加者数：17組42人 計6回60組137人で開 催	A	無	生鮮食料品やお花、市場や流通について知識を深 めてもらえた。また、市場を身近なものとして観 しんでもらえるようになった。	市場管理課		
5	Ⅳ	1	(1)	親子文化財教室	市（高松市 文化財保護 協会共催）	小・中学生と保護者を対象に、年2回、 郷土の歴史・文化財を学習し、文化財を 身近に学ぶ機会を提供する。		○		「草木古代染めをしよう！」 (8/9) 「高松張り人形を作ろう！」 (12/17)	参加人数	80人	77人	B	無	令和 5 年度は、前年度と同様に午前・午後の2部 制を取り入れた。実施に相応しい広い会場の確保 が難しく、講座の定員を減少せざるを得なかつ たが、概ね前年度の実績並みとなった。	文化財課		
6	Ⅳ	1	(1)	香南歴史民俗郷土館子ど も講座	市	香南歴史民俗郷土館で、夏休みを中心 に、郷土の歴史文化を体験する、子ども 講座を開催する。		○		「ダンボールで恐竜をつくら う」(7/22) 「手習草子（書道教室）」 (7/28) 「化石のレプリカをつくらう」 (7/30) 「麦わらヒンメリをつくらう」 (8/11) 「麦わらでものづくり」(8/26・ 9/16) 「親子で体験！拓本deアート」 (3/20)	参加人数	5講座 96人	6講座 108人	A	無	夏休み子ども講座と企画展関連講座を実施した。 新たな講座も開設し、昨年度より1講座増となっ た。 館の利用促進と親子の関係性を深める機会を提供 し、今後も講座内容の充実や受講生の確保に積極 的に取り組む。	文化財課（香南歴史民俗郷土館）		

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 （別紙２）参照				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウ イルス感染 症の影響	成果と 今後の課題	課名
								指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価								
													ア	イ	ウ	エ			
7	Ⅳ	1	(1)		夏休み子ども歴史講座	市	小中学生を対象に、夏休みの自由研究として郷土の歴史をテーマに調査研究できるよう、夏休み子ども歴史講座を開催する。		○			「『かわいい』を集めよう」 (7/26)	参加者数	20人	5人	C	無	積極的な情報発信に努めたが、目標値を下回った。講座内容を検討し、より一層積極的な広報活動に努めていく。	文化財課（歴史資料館）
8	Ⅳ	1	(1)		新春子どもフェスティバル	市	毎年2月第1日曜日に中央公園を中心に、校区対抗「かるたとり・ドッジボール・すもう大会」、自由参加の創作コーナー等多彩なプログラムで開催する。			○		開催日：令和6年2月4日（日） 場所：高松市立中央公園、四番丁スクエア、体育館、高松市役所 内容：校区対抗（かるたとり、ドッジボール、すもう）自由参加（遊び名人コーナーほか）、校区バザー 参加人数：約4,500人	参加人数	約3,000人	約4,500人	A	無	コロナ禍で中止していたバザーや露店の出店を再開した。 5年度からの新たな取組として、移動図書館車「ララ号」による図書の貸出しや、英語版「高松わくわくかるた」のお披露目を行った。 参加校区数が少ない種目について、参加校区数の増加に向けた取組や種目の見直しを検討していく必要がある。	生涯学習課
9	Ⅳ	1	(1)		子ども会フットベースボール大会	市	子ども達がスポーツを通して交流し友情を育む機会として、校区子ども会を対象にフットベースボール大会を開催する。			○		開催日：令和5年9月3日（日） 開催場所：高松市西部運動センター 参加チーム：男子の部11チーム、女子の部2チーム 総勢：156人	参加校区数	男子8校区 女子4校区	男子10校区 女子2校区	A	無	ミスト扇風機の設置やこまめな水分補給の呼び掛け等、熱中症への注意を払い、実施した。 男子チームにおいては、令和4年度より参加チームが増加している。 しかし、女子の参加者数が減少傾向にあることから、チーム構成の検討や、体験等、男女ともに参加校区数の増加につながる取組を検討する必要がある。	生涯学習課
10	Ⅳ	1	(1)		少年団体育成事業	市	校区子ども会育成連絡協議会相互の連携を図り、子ども会活動の充実と子どもの健全育成のため高松市子ども会育成連絡協議会の運営を支援する。			○		高松市子ども会育成連絡協議会に対し、運営補助金を交付。	子ども会加入率	67.8%	58.1%	B	無	子ども会加入率については、前年度を下回った。 令和5年度は、子ども会加入促進チラシのリニューアルを行った。引き続き、高松市子ども会育成連絡協議会の自主運営による子ども会活動の加入促進が図れる支援方法を検討する必要がある。	生涯学習課
11	Ⅳ	1	(1)		子ども会育成指導者養成事業	市	各校区の子ども会リーダー・育成者を対象に、子ども会活動に必要な実技指導の講習会を開催する。			○		講習会・研修会を年4回実施 5月：新役員講習会（ホテルセカンドステージ） 7月：リーダー研修会（YASU海の駅クラブ） 10月：指導者講習会（琴平町） 2月リーダー研修会（男木島）	参加校区数	10校区	15校区	A	無	計画の通り、年4回実施でき、昨年度より多くの校区から参加いただけた。 令和6年度も年4回の会を実施予定である。参加人数の増加に向けた取組について検討していく必要がある。	生涯学習課
12	Ⅳ	1	(1)		地域活動促進事業	市	地域における子ども活動の充実・拡大のため、子ども会や育成会が実施する研修会や事業に、専門的な指導・助言を行う指導員を派遣する。	○	○			生涯学習課のHPを通して事業の概要と、指導者派遣について広報 指導者14名を委嘱	申請件数	0件	3件	A	有	コロナが5類に移行したことなどから、昨年度より実施件数が増加した。 本制度の積極的な活用について、積極的に周知していく必要がある。	生涯学習課
13	Ⅳ	1	(1)		職場体験学習	小中学校	児童生徒の実態や発達段階に応じて、社会体験・職場体験活動等を通して、望ましい労働観・職業観を育む。	○	○			訪問実習型の職場体験活動を実施した学校は21校ある。残り1校は商工会議所からゲストティーチャーを校内に招き、職業別に講話型の学習を行った。	実施学校数	中学校数校（全22校） 0%	中学校数校(全22校) 96%	A	無	新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、訪問実習型の職場体験活動をおおむね再開している。学校の実情に応じた学校行事の見直し等により、ゲストティーチャーを招いての活動に切り替えるなどの工夫も見られた。	学校教育課
	Ⅰ	1	(2)											（訪問実習校数）	（訪問実習校数）				
14	Ⅳ	1	(1)		年長児童の赤ちゃん・出会い・ふれあい事業	市	次代の親づくりとして、命の大切さや家庭の役割等について理解を深めるため、年長児童が乳幼児や保護者と出会い・ふれあい・交流する場を開設する。	○	○			実施校数は前年度から4校増加し、17校の中学校がふれあい体験事業を実施した。	ライフデザインを考えるきっかけとなった生徒の割合	80%	83%	A	無	令和5年度は、十分な感染症対策を講じた上で、対面形式でふれあい事業を実施することができた。今後も、事業を実施する学校及び委託団体の意向を尊重し、実施方法を検討する。また、新たに事業を実施する学校及び委託団体を募集し、事業の拡充に努める。	子育て支援課
	Ⅰ	2	(10)																
15	Ⅳ	1	(1)		保育所・幼稚園等への芸術士派遣事業	市（委託）	子どもの感性や創造力を育むため、保育所・幼稚園等に芸術士を派遣し、日々の保育の中で、絵画や造形、音楽など様々な表現活動を行う。		○			実施施設 保育所・こども園 72施設 幼稚園 28施設	実施経験施設数	97か所	100か所	A	有	実施している施設についてアンケートを実施しているが、概ね高評価である。	こども保育教育課
	Ⅰ	2	(10)																

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R5年度事業内容 (実績)	評価指標				※新型コロナウ イルス感染 症の影響	成果と 今後の課題	課名
								指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価								
	ア	イ	ウ	エ															
16	IV	1	(1)	サンクリスタル学習	市	主に小学校6年生を対象に、歴史資料館・菊池寛記念館・中央図書館での体験学習「サンクリスタル学習」を実施する。		○			主に小学校6年生を対象に、歴史資料館・菊池寛記念館・中央図書館での体験学習「サンクリスタル学習」を実施した。	実施校数	32校	31校	B	無	市内小学校への周知に努めたが、新型コロナウイルス5類移行直後であり、概ね前年度の実績並となった。	文化財課 (歴史資料館、菊池寛記念館) 中央図書館	
	I	2	(10)																
17	IV	1	(1)	美術館学習	市	子どもたちが豊かな感性と未来の鑑賞者としての資質を育むため、美術館での鑑賞・施設学習を実施する。		○			子どもたちが豊かな感性と未来の鑑賞者としての資質を育むため、美術館での鑑賞・施設学習を実施した。	美術館学習参加者数	参加校 64校 延べ参加者数 2,142人 (引率者含む)	参加校 61校 延べ参加者数 2,440人 (引率者含む)	A	無	昨年より校数は3校減ったが、展覧会やランチ・ギャラリーの活用によって学校の美術館の活動への認知が広まったことにより、新型コロナウイルス感染症流行以前(H31年度)と比較して、参加校数、参加者数ともに増加傾向にある。引き続き、学校との連携を意識した活動を企画していきたい。人員に限りがあり、更なる事業の拡充は難しく、今後の課題となっている。	美術館美術課	
	I	2	(10)																
18	IV	1	(1)	まなびCANこども教室	市	生涯学習センターにおいて、ボランティア講師による、小・中学生を対象としたものづくりや環境問題等の講座を開催する。		○			生涯学習センターにおいて、ボランティア講師による、小・中学生を対象としたものづくりや実験教室などを開催した。	参加者数	93	91	B	無	昨年度と同程度の参加者数で講座を開催した。今後も、ボランティア講師を積極的に募集し幅広く各種の講座を開催する。	生涯学習センター	
19	IV	2	(1)	放課後子ども教室	市	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の人々の参画のもと、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する。	○	○			実施校区数は前年度から1校区減になった。 ・参加児童数 29,689人 ・登録児童数 2,569人	実施校区数	34校区	33校区	B	無	現在の担い手が引退したため、令和5年度においては、1校区が閉室となり、33校区となったが、コミュニティ協議会の会長等が集まる総会において、事業の連携について説明を行い、実施校区数の増加に努めた結果、令和6年度には、新たに2校区のこども教室の開室が予定されている(内1校区は、復活)。事業委託先である地域の関係団体を組織する構成員の高齢化に伴い、人材の確保・育成が課題となり、新規開設が困難となっている状況ではあるが、今後も、実践的かつ多様な研修を実施し、人材を育成することにより、事業の充実を図るとともに、未実施校区の関係団体に 対し、教室開設の働き掛けを継続し、新規開設校区の増加を図る必要がある。	子育て支援課	
20	IV	2	(3)	出前講座「家庭における就学前情報モラル教育について」	市	スマートフォンやタブレット、ゲーム機等によるインターネットの長時間利用によるネット・ゲーム依存が、子どもたちを取巻く社会問題となっている。とりわけ、幼少期からインターネットに触れる機会が多くなり、内閣府の調査によると小学校入学までに50%以上の幼児がインターネットを利用している。そこで、少年育成センターの職員が、未就学児の保護者向けに講話を行い、ネット・ゲーム依存の実態や防止策等の啓発を行うとともに、安心で安全なインターネット利用について保護者に考えてもらう機会とする。		○			三溪幼稚園、大野幼稚園、木太幼稚園、はらこども園(2回)、川島こども園(2回)、木太小学校に職員を派遣して、未就学児の保護者に対し、ネット・ゲーム依存対策をはじめとする安全・安心なインターネットの利用に関して、注意してほしいことについての講話を行った。 (6園(延べ8園) 230人)	実施園数	3園	6園(延べ8園)	A	無	低年齢化する子どものインターネット利用に対する保護者の不安に対し、ネット・ゲーム依存の実態や防止策等の啓発を行うことで、考える機会を持ってもらえた。 引き続き多くの園で講話が行えるよう周知を図ってまいりたい。	少年育成センター	
21	V	1	(1)	掃除教育「びかびかデー」	市	幼稚園・小学校で、地域の高齢者等から掃除の仕方を学びながら清掃活動・心の教育を行う。	○	○			(こども保育教育課) 実施施設：幼稚園19園、こども園10園 月1回程度、園児が保護者や地域の老人会等と一緒に園内や地域の清掃をした。 (学校教育課) 各校で独自に取り組むため、実施目標なし	(こども保育教育課) 実施幼稚園数 (学校教育課) 実施小・中学校数	(こども保育教育課) 幼稚園19・こども園10 (学校教育課) 小学校47校・中学校22校	(こども保育教育課) 幼稚園19・こども園10	A	無	(こども保育教育課) 園児が自分で身の周りをきれいにする心地よさや有用感を味わうとともに、地域の人や保護者とのふれあいの場となった。	こども保育教育課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名
								（別紙２）参照					指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
								ア	イ	ウ	エ								
22	V	1	(1)	スマイルあいさつ運動	市	学校・家庭・地域社会が一体となり地域ぐるみで子どもを育てる活動の一環とし「スマイルあいさつ運動」を実施する。	○	○			学校が家庭や地域社会に働きかけ、学校や地域の実態に応じて実施。	スマイルあいさつ運動 実施校数	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	無	児童生徒、教職員、保護者、地域住民が連携協力して、あいさつや声を掛け合うことを通して、「節度ある生活習慣」、「礼儀」、「思いやり」、「感謝」等、豊かな心を育み、学校・家庭・地域社会を活性化していくことにつながった。	学校教育課	
23	V	1	(1)	学校評議員制度推進事業	市	地域社会に開かれた学校づくり、家庭・地域との連携協力、特色ある教育活動の展開のため、保護者や地域の意見を幅広く聞く場として、第一高松高等学校に、高松型運営協議会を設置する。	○	○			高松第一高等学校に学校評議員会を設置し、4名の評議会委員を委嘱及び任命した。	高校	高校 全1校 100%	高校 全1校 100%	A	無	学校運営に関して高松市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組んだ。	学校教育課	
24	V	1	(1)	学校・地域連携システム 推進事業	市	児童・生徒の健全な成長や学びを地域全体で支え、地域連携を中心とした教育活動の充実を図るため、学校運営協議会を各小・中学校に設置し、学校やPTA、地域住民、各種団体等との連携を図る。 ※令和4年度までは高松型学校運営協議会	○	○			全小・中学校に、学校運営協議会を設置し、約900名の協議会委員を委嘱及び任命した。	小学校・中学校	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	無	学校運営に関して高松市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んだ。	学校教育課	
25	V	1	(1)	中学校運動部活動講師・ 部活動指導員派遣事業	市	運動部活動のうち、技能の取得過程で危険を伴う競技(柔道・剣道・なぎなた)を対象に、専門性等に優れた外部指導者を派遣する。学校における部活動指導方針に沿い、部活動の指導全般、単独の指導、大会等への引率を行う部活動指導員を派遣する。			○		外部指導者4名、部活動指導員7名の委嘱・派遣を行った。	派遣希望学校（競技） 数	9人	11人	A	無	講師派遣希望があった学校に講師を委嘱・派遣し、生徒への技術的な面や精神的な面での指導、部活動担当教員に対して指導方法等の助言ができた。また部活動指導員を派遣することで、顧問として指導、引率等の職務を行うことにより、教員の負担軽減につながった。 今後、部活動指導員の拡充を図るためにも、専門指導が行える人材確保が重要であり、香川県が設置予定の人材バンクを積極的に活用していく。	保健体育課	
	I	2	(4)																
26	V	1	(1)	学校教育推進事業 （R1事業名変更）	学校教育活性化推進事業実施校（補助）	総合的な学習の時間の活性化を図るため、地域社会の人材活用や児童生徒の体験活動の充実を図る。	○	○			全小・中学校で、地域人材等を活用して総合的な学習の時間を実施し、体験活動の充実が図られた。	地域人材の活用	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	無	全ての小・中学校で地域人材を活用し、児童生徒の体験活動の充実が図られた。	学校教育課	
	I	2	(10)																
27	V	1	(1)	地域に開かれた幼稚園づくり推進事業	市	幼稚園を地域に開放し、園庭開放や園児と未就園児親子の交流活動、子育て情報提供・相談等を実施する。			○		実施施設：幼稚園19園 園庭解放、園児と未就学児親子の交流活動、子育て相談等を実施した。	実施幼稚園数	18園	19園	A	無	園児と地域の未就園児が安心して遊ぶことのできる交流活動の実施や、保護者の子育ての悩みを軽減できる機会の提供につながった。	こども保育教育課	
	V	2	(1)																
28	V	2	(1)	地域子育て支援拠点事業	市（委託、直営）	乳幼児及び保護者が相互交流する場を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言など支援を行う。			○		私立保育所及び認定こども園に委託（旧センター型） 16か所 週6～7日開設 10,491千円×1か所 週5日開設 9,916千円×13か所 小規模型 3,046千円×1か所 利用者支援事業併設型 8,398千円×1か所	実施施設数	16か所	16か所	A	無	乳幼児及びその保護者へ交流の場の提供、子育て等に関する相談・援助、情報提供及び月1回以上の講習等を実施して支援を行うことができたほか、地域支援の取組として、高齢者、地域学生等の地域の多様な世代との交流を実施した。	こども保育教育課	
29	V	2	(1)	地域子育て推進事業（私立）	市（委託、直営）	子育て家庭の不安を軽減するため、保育所等を地域に開放し、育児相談や子育てサークル支援等を行う。			○		私立保育所9か所、認定こども園等6か所、小規模保育事業所1か所 （委託料：1か所あたり450千円が上限）	実施施設数	16か所	16か所	A	無	育児相談、子育て支援に関する情報提供及び子育てサークル等に対する支援を実施することにより、子育て家庭の不安の軽減と支援の充実につながった。	こども保育教育課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R5年度事業内容 (実績)	評価指標				※新規コ ロナウイ ルス感染 症の影響	成果と 今後の課題	課名
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
30	V	2	(1)		地域子育て推進事業 (市立)	市(委託、 直営)	子育て家庭の不安を軽減するため、保育所等を地域に開放し、育児相談や子育てサークル支援等を行う。		○			実施施設：市立保育所17か所、市立こども園10か所 在園(所)児と一緒に、施設の行事や集会などへの参加や、保護者と一緒にふれあい遊びを楽しむ機会を提供した。 また、育児相談、情報提供、入園(所)案内も実施した。	実施施設数	市立保育所16か所 市立こども園10か所	市立保育所17か所 市立こども園10か所	A	無	在園(所)児と一緒に、施設の行事や集会などへの参加や、保護者と一緒にふれあい遊びを楽しむ機会を提供することができ、育児相談や子育てサークル等に対する支援の充実につながった。	こども保育教育課
31	V	2	(1)		保育所・幼稚園への出前 食育事業	市	保育所・幼稚園等において、子どもたちや保護者に講話やエプロンシアター・紙芝居等を実施し、幼児期からの正しい食習慣づくりを支援する。		○			保育所・幼稚園等において、児童や保護者を対象に、講話やエプロンシアター、紙芝居等を実施した。 市立保育所 7か所、市こども園 5か所、市立幼稚園 7か所 合計 19か所	実施施設数	17か所	19か所	A	無	令和5年度においては、保護者を対象とした講話等も実施することができ、幼児期における望ましい食習慣づくりへの支援等につなげることができた。	こども保育教育課
32	V	2	(1)		学校教育における食育推進事業	市	学校給食を中心とした食育の取組みを紹介するとともに、食の現状や課題への理解を深め、食の大切さを伝えるために、「食育セミナー」を開催する。		○			高松市朝日新町学校給食センターで年4回(7、8、11、3月)に実施。 7月 朝日新町学校給食センター見学会 10組16人 8月 子ども料理教室 12人 11月 木の工場見学 11組25人 3月 親子料理教室 8組19人	食育セミナー開催回数	2回	4回	A	無	工場見学や料理教室等の食育セミナーを通して、学校給食や食への関心を高め、家庭における食生活を見直す機会を提供することができた。 今後は、さらに食育等への関心を高め、無関心層の誘引にもつながるような、広く市民の目に触れる手法での情報発信を行うことが必要である。	保健体育課
33	V	2	(1)		家庭教育応援講座	市	就学時健康診断等の機会を活用し、就学前児童の保護者を対象に、家庭教育の専門家等による講座を開催する。		○			令和4年度より、家庭教育学級を廃止し、子育て力向上応援講座と統合し、新たに「家庭教育応援講座」とした。就学時健康診断や授業・保育参観日等を活用し、家庭での教育力向上を図った。 ・小学校+PTA 延べ95回 ・幼稚園こども園保育所(公立)+PTA 77回	講座実施か所数	128か所	172か所	A	無	小学校・幼稚園こども園保育所ともに昨年度より実施件数は増えている。 あらゆる機会をとらえて本事業の積極的な活用を促す。	生涯学習課
34	V	2	(1)		早寝早起き朝ごはん運動 普及啓発事業	市	子どもの基本的生活習慣の定着を図るため、就学時健康診断等の機会を活用し、啓発チラシの配布・説明等を行う。		○			・生活リズムチェック事業(小・中学校)を実施 ・食育フェスタ、学校給食展での啓発コーナーの設置 ・家庭教育応援講座での啓発活動	朝ごはんを食べている子どもの割合(全国学力・学習状況調査 香川県公立小学校6年生)	84.00%	82.5%	B	無	朝ごはんを食べている子どもの割合(全国学力・学習状況調査 香川県公立小学校6年生)については、毎年80%以上を維持できている。 生活リズムチェックシートの調査においても、朝ご飯の摂取率は県平均より高く、「起床時刻」、「就寝時刻」、「運動時間」等の基本的な生活習慣に関する項目は70%以上を推移している。 10年以上啓発活動を続けたことにより、高い結果が維持できていると考えられ、今後も啓発チラシや生活リズムチェックシートの配布等を通して、継続して啓発活動を行う必要がある。	生涯学習課
35	V	2	(1)		こどもスマイルテレホン 事業	市	家庭問題・不登校・非行やいじめ等、子どもに関する悩みの相談窓口として「こどもスマイルテレホン」を開設する。	○				21件	相談件数	24件	21件	B	無	それぞれの悩みについて、相談窓口としての対応ができた。 今後も小中学校への「こどもスマイルテレホンカード」の配布など、事業の周知を継続していく必要がある。	少年育成センター

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウィ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名
								（別紙２）参照					指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
								ア	イ	ウ	エ								
36	V	2	(1)		ブックスタート事業	市	4か月児相談の機会を活用し、絵本バックの贈呈とボランティアの協力による読み聞かせを行い、その利用方法と効用を説明し、楽しい子育て、読書への動機付けを図る。				○	4か月児相談時 及び 4か月児相談に参加していない世帯には、後日配布として保健師が家庭訪問し、対象者2,695名のうち、2,537人に、絵本バックを贈呈した。なお、感染症の集団感染を防止するため、令和2年2月以降中断していた読み聞かせを令和6年4月より再開する運びとなり、3月にボランティア募集及び研修会を開催した。	絵本バックの交付率	94.25%	94.14%	B	有	転出者等もあることから、交付率を100%にすることは困難であるが、交付対象者の9割以上に絵本バックを贈呈できている。 また、令和6年度から読み聞かせを再開するにあたり、コロナ前後で保健センター、ステーションでの4か月児相談の開催形式が変更になったことを受け、当事業の形式も合わせる必要があったので、開催方法の見直しを行い、ボランティア向けに研修を行った。	中央図書館
37	V	2	(1)		「いじめや不登校に関する相談電話」事業	市	いじめ問題や不登校へ適切に対応するため、いじめや不登校に関する相談電話を設置し、児童・生徒、保護者等からの相談に対応する。				○	・いじめや不登校に関しての案件について、電話相談を行った。	電話相談 窓口相談	6 6 件	7 6 件	A	無	相談を受けつつ、内容によっては他の支援先につなぐこともできしており、継続して相談する保護者もいる。 本市の不登校児童生徒は増加傾向にあることから、今後も相談を継続し、質を今以上に向上させていきたい。	総合教育センター
38	V	2	(1)		不登校等に関するカウンセラーによる教育相談事業	市（委託、直営）	教育支援センターの児童生徒をはじめ、不登校および不登校傾向の児童生徒やその保護者に対して、継続的な相談活動を行う。				○	・常時、カウンセラー2名を配置し、教育相談を行った。 ・カウンセラーには、教育支援センターの親の会（年8回）や通室支援検討会にもアドバイザーとして参加してもらった。	教育相談実施回数	1 8 4 件	1 4 7 件	B	無	不登校の児童生徒を持つ保護者が相談しやすい環境づくりができている。 教育相談を継続利用している保護者も多く、学校や教育支援センターと連携しながら子供や保護者の支援を行う。	総合教育センター
	I	2	(3)																
39	V	2	(2)		子どもを中心にした地域交流事業	市	地域で活動する各種団体等が協働することにより、団体の持ち味やネットワークを活かしながら、子ども及び保護者並びに地域の大人が関わる継続的な事業を実施することで、地域の住人が顔見知りになるほか、地域の一体感を醸成するとともに、地域ぐるみで子どもを育む機運を高める。	○		○		【新規1団体】 ①鬼無（夏祭り、植木盆栽剪定、防災キャンプ、冬まつり、ボール遊び、鬼無桃太郎まつり） 【継続3団体】 ②二番丁（和太鼓教室、餅つき大会等） ③川東（カブトムシの育成、そうめん流し、将棋教室） ④浅野（学習活動、地域探検、さつまいもの植付・収穫）	実施団体数	・新規2校区 ・継続5校区	・新規1校区 ・継続3校区	C	無	すべての団体がほぼ計画通りにイベントを実施できており、子ども、地域住民、保護者間の結びつきが強くなったという成果が見受けられた。 助成期間終了後においても引き続き活動できるよう周知・啓発を行う。	生涯学習課
40	V	2	(2)		地域コミュニティ人材養成事業	市	まちづくり活動の中核を担う地域のリーダー養成を目的とした人材養成事業を実施する。	○				地域コミュニティの人材育成を目的に、役職別研修やSNS活用のための研修など14回の研修を実施した	研修会の参加人数	560人	392人	C	無	R5年度実施した研修のアンケート等を参考にニーズに沿った研修となるよう取り組む。	コミュニティ推進課
	VI	1	(2)																
41	VI	1	(1)		男女共同参画センター学習	NPO法人たかまつ男女共同参画ネット（委託）	高松市男女共同参画センターにおいて、男女共同参画に関する各種セミナー・講座を開催する。				○	高松市男女共同参画センターにおいて、男女共同参画に関する各種セミナー・講座を開催した。 ○学習研修事業等（全63回） ・だれもがいきいきまちづくり講座（5回） ・女性のための就労支援講座（12回） など	学習研修事業の参加者数	1,503人	1,876人	A	無	予定通り事業を実施することができた。 今後も、参加者増加を図るために魅力ある講座の実施を検討していく。	男女共同参画・協働推進課

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名
								（別紙２）参照					指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
								ア	イ	ウ	エ								
42	Ⅵ	1	(1)	男女共同参画週間事業	市	男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画の啓発のためのパネル展、弁護士による法律講座・相談等を実施する。	○				男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画の推進にかかる講座等を行った。 男女共同参画啓発事業（6/23～6/29） ・女性弁護士による講座・相談 ・パネル展 ・啓発グッズの配布	男女共同参画週間中の参加者数	731人	827人	A	無	予定通り事業を実施することができた。 今後も、参加者増加を図るために魅力ある内容を検討し、取り組む必要がある。	男女共同参画・協働推進課	
43	Ⅵ	1	(1)	男女共同参画市民フェスティバル	男女共同参画市民フェスティバル実行委員会（補助）	高松市男女共同参画センター登録団体が中心となり、講演会の開催・パネル展・ワークショップ等を開催する。	○				高松市男女共同参画センター登録団体が中心となり、講演会・パネル展・ワークショップ等を開催した。 (11/18～12/3)	男女共同参画市民フェスティバルの参加者数（講演会、パネル展、ワークショップ合計）	1,632人	1,430人	B	無	参加者数は減少する結果となったが、予定通り事業を実施することができた。 講演会では、ごみ問題という視点から、ジェンダーについて触れる内容となり、参加者に対して実施したアンケートでは、「大変良い」、「良い」と回答する割合が86%から93%へ上昇するなど、好評であった。 今後も、参加者増加を図るために魅力ある内容を検討していく。	男女共同参画・協働推進課	
44	Ⅵ	1	(1)	市民活動センター情報発信事業	市	市民活動センターホームページ「ふらっと高松」において、NPO等団体の情報を収集・発信する。	○				ホームページ「ふらっと高松」、メールマガジン、フェイスブック及び機関誌「コラボたかまつ」等を活用し、情報発信を行うことができた。また、ケーブルテレビ「コミュニティチャンネル」に市民活動団体活動紹介チャンネルを設け、市民活動に取り組む市民自らが出演し、効果的な活動紹介を行うことができた。 このほか、NPO法人との連携強化のため、本市のみに事務所を置くNPO法人とのネットワークづくりをし、情報発信を行っている。	ホームページ登録団体数	94団体	99団体	A	無	NPO法人にメールでの情報配信を行い、連携強化が図れた。引き続き、市民活動センター機能の一つである「情報収集・発信」に取り組み、市民活動団体の支援の充実を図る必要がある。	男女共同参画・協働推進課	
45	Ⅵ	1	(1)	地域コミュニティ協議会情報発信事業	市	地域コミュニティ協議会がホームページやSNSなどで発信する情報に素早くたどりつけるように、市ホームページに協議会の紹介ページを作成し、情報拠点として運用する。	○				地域の情報収集、発信、ネットワーク形成できる情報拠点	ポータルサイトへの掲載団体	44団体	44団体	A	無	市HP内に44協議会の紹介ページを掲載しており、タイムリーな情報をより充実させることで情報拠点として運用する。	コミュニティ推進課	
46	Ⅵ	1	(1)	人権・同和問題啓発活動事業	市、コミュニティセンター、高松市人権啓発推進協議会（26年度以降、人権尊重都市たかまつ市民会議）	市民の人権意識の普及・高揚を図るため、啓発物品等の作成・配布及び人権フェスティバル、市民のつどい、ハンセン病を正しく理解する講演会等を開催する。	○	○			○人権啓発用パンフレット、啓発物品等の作成・配布 ○人権フェスティバルの開催 年1回 ○スマイルフェスティバルの開催 年1回 ○ハンセン病を正しく理解するパネル・作品展 ○ハンセン病を正しく理解する講演会の開催 年1回 ○人権の花運動 小学校6校配置	人権フェスティバル、平和と人権を守る市民のつどい以降、スマイルフェスティバル）、ハンセン病を正しく理解する講演会参加者数	○人権フェスティバル 500名 ○スマイルフェスティバル 234名 ○ハンセン病を正しく理解する講演会 221人、 パネル・作品展 621人	○人権フェスティバル 1,100名 ○スマイルフェスティバル 441名 ○ハンセン病を正しく理解する講演会 120人、 パネル・作品展 697人	A	有	新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行とはなったが、一部感染症対策を講じ、計画に沿った事業を実施し、人権意識の普及・啓発に活かすことができたため、今後も継続して事業を実施していく。	人権啓発課	
47	Ⅵ	1	(1)	地域における人権啓発推進事業	市、地域コミュニティ協議会	各地域コミュニティ協議会で選任された人権啓発推進員が、生涯学習推進員と協力して、地域の生涯学習における人権に関する講座の企画・運営及び広報活動を実施する。	○	○			○人権啓発推進員研修会の開催 年1回 ○地域の「生涯学習事業」の中で実施されている人権に関する講座の企画・運営及び広報活動参加者数 延べ1,089人	人権に関する講座等の参加人数	1,006人	1,089人	A	有	人権啓発推進員の工夫により様々な形態での啓発事業を実施し、広く市民の人権意識の普及・高揚に努め、参加人数は増加した。今後も啓発活動を継続し、参加者の増加に努める。	人権啓発課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R5年度事業内容 (実績)	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名
								指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価								
													ア	イ	ウ	エ			
48	VI	1	(1)	人権・同和問題指導者養成事業	市	人権を尊重する明るい職場づくりや人権に配慮したやさしい企業づくりを推進するため、市内の事業所の代表者や人権啓発等を担当する職員を対象に、指導者研修講座を開催する。	○	○			○人権・同和問題啓発講座の開催 年1回	人権、同和問題指導者研修講座参加者数	参加企業463社 630回	参加企業435社 540回	B	有	令和5年度も、昨年度同様、Webで実施したが、参加者数は減少した。 6年度は、多様な媒体での周知、事業内容の充実や多数の参加者が望める場所での啓発事業を実施していく。	人権啓発課	
49	VI	1	(1)	平和啓発推進事業	市	平和意識の啓発・普及のため、平和を語るつどい・映画祭、空襲写真展、戦争遺品展、講演会等を開催する。	○	○			○平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭(5月13日)、高松空襲展(6月24日～7月5日)、高松市戦争遺品展(7月13日～19日)、原爆パネル展(8月3日～9日)、収蔵品巡回展(11月2日～3日)、小中学校での平和講演会(10月17日、12月1日)、教職員のための平和教育講演会(8月4日) ○平和記念だよりの発行(4回)	平和記念館(仮称)入館者数、平和意識の啓発事業の参加者数	平和記念館入館者数 13,525人、 平和意識の啓発事業参加者数 6,131人	平和記念館入館者数 16,198人、 平和意識の啓発事業参加者数 7,384人	A	無	予定通り事業を実施することができた。また、平和意識の高まりにより、令和4年度に比べると増加している。 今後においても、多様な媒体での事業の周知、事業内容の充実や多数の参加者が望める場所での啓発事業を実施していく。	人権啓発課	
50	VI	1	(1)	防災講演会	市	防災士を始め、各地で地域防災に関心のある市民を対象に、地域防災に取り組むために必要な内容について、学識経験者等を講師に招き、防災講演会を開催する。				○	防災士を始め、各地で地域防災に関心のある市民を対象に、地域防災に取り組むために必要な内容について、学識経験者等を講師に招き、防災講演会を開催した。	参加者数	会場 40人 リモート 16人 合計 56人	会場 44人 リモート 36人 合計 80人	A	有	昨年度より、参加者が増加した。参加人数の維持・向上、幅広い年齢層の参加者獲得に向けて、広報活動を行っていく。 また、オンライン視聴者からのアンケートに音声に不具合があったとの回答があったことから、令和6年度の開催時、注意する。	危機管理課	
51	VI	1	(1)	市政出前ふれあいトーク事業	市	市政の仕組みや取り組んでいる施策・事業、今後の検討課題等について、設定テーマに応じて、職員が地域へ向向き、説明及び情報提供・意見交換を行う。	○				テーマ数：146 実施回数：217回 参加人数：7407人	市政出前ふれあいトークの実施回数	215回	217回	A	無	多くの市民に御利用いただけた。今後も本事業を通し、市民の市政への参画につなげたい。	広聴広報課	
52	VI	1	(1)	広報高松による情報提供	市	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、毎月1日「広報高松」を発行する。	○				「広報高松」を月1回(1日)発行し、生涯学習に関するイベント情報や募集情報を周知した。	—	—		評価不可	無	「広報高松」を月1回(1日)発行し、生涯学習に関する講座やイベントを適宜掲載した。	広聴広報課	
53	VI	1	(1)	市ホームページによる情報提供	市	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、市ホームページ「もっと高松」の管理・運営を行う。	○				生涯学習に関するイベント情報や募集情報を市民に対して周知した。また、SNSとホームページを連携させ情報が幅広く周知できるようにも取り組んだ。	—	—		評価不可	無	市ホームページ「もっと高松」で、生涯学習に関する講座やイベント情報を適宜発信した。	広聴広報課	
54	VI	1	(1)	認知症サポーター養成講座	市	認知症高齢者等に対する正しい知識を持ち、地域で認知症高齢者等や家族を支援するサポーターを養成し、安心して暮らせる地域づくりの担い手を増やす。	○				講師(キャラバン・メイト)が出向き、「認知症とはどのようなものか」「認知症の方にどのように接したらよいか」などをビデオや講話を通して理解を深める。 (参加人数：一般住民468人、企業617人、学校1,244人、行政機関131人、介護サービス事業所59人)	認知症サポーター数	認知症サポーター養成人数1,979人	認知症サポーター養成人数2,519人	A	無	今後も認知症への理解促進のために、地域や企業、学校等へ受講への啓発を行い、認知症サポーター養成講座受講者を増やしていく必要がある。	地域包括支援センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 （別紙２）参照				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染 症の影響	成果と 今後の課題	課名
													指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
								ア	イ	ウ	エ								
55	Ⅵ	1	(1)		かがわ国際フェスタ	市	市民の国際交流・国際協力・多文化共生に対する理解の増進と国際感覚の醸成を図るとともに、国際交流・国際協力の担い手である団体や関係機関相互の連携強化のため「かがわ国際フェスタ」を開催する。	○				新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年から2022年までは、それまでの1日開催から、一カ月間、展示とインターネットでの配信を中心とした開催としていたが、4年ぶりに1日開催とし、飲食ブースの設置やステージイベントなどにより、約6,900人が来場して、国際交流への理解を深めることができた。	「かがわ国際フェスタ」参加者数	7,800人	6,900人	B	無	4年ぶりに1日開催とすることができ、久しぶりの飲食ブースの設置や、ステージイベントの開催で、多くの市民が触れ合いながら楽しく国際交流への理解を深めることができた。 今後もイベントの開催を通して、国際交流・国際協力に携わる団体相互の連携強化や、市民の国際交流・協力活動への参加・理解を促進していく。	都市交流室
56	Ⅵ	1	(1)		瀬戸内国際芸術祭推進事業	瀬戸内国際芸術祭実行委員会（補助）	文化芸術の振興と瀬戸内の活性化・地域振興、世界への情報発信のため、3年毎に国際的な芸術祭として「瀬戸内国際芸術祭」を開催する。	○				一年を通して地域活動への参加やアート作品の公開等（ART SETOUCHI）を継続して実施。	来場者数	153,429人	—	評価不可	有	「瀬戸内国際芸術祭2022」では、会場となる島等の地域住民の理解を得た上で、新型コロナウイルス感染症対策を講じて芸術祭を開催することができた。 令和5年度は、一部感染対策を継続実施しているものの、観光客も徐々に増え、ツアー等の関連イベントについても実施することができた。また、「瀬戸内国際芸術祭2025」に向けた関係各所との調整を進めた。 今後も地域住民の意見や社会情勢等を十分に注視しながら、「瀬戸内国際芸術祭2025」に向けた準備を進めていく必要がある。	文化芸術振興課
57	Ⅵ	1	(1)		市民文化祭	高松市市民文化祭アーツフェスタかまつ事業運営委員会（補助）	市民企画提案型事業「アーツフェスタかまつ」の開催を支援する。	○				開催団体：17団体 鑑賞者数：4,980人	アーツフェスタ鑑賞者数	5,659人	4,980人	B	有	令和5年度は、サンポートホール高松の改修工事のため、同ホール以外の市内公共施設での開催となった。小規模な会場での公演もあったため、令和4年度より鑑賞者数が減少した。 6年度は、サンポートホール高松の改修工事も完了し、同ホールをメイン会場としての開催であることから、広報活動を積極的に行い、鑑賞者数の増加に努める。	文化芸術振興課
58	Ⅵ	1	(1)		デリバリーアーツ事業	公益財団法人高松市文化芸術財団（委託）	普段の生活の中で身近で気軽に文化芸術に親しむ機会づくりとして、市民の希望により出前公演を実施する。	○				開催回数：高松市内全14回 高松市外全7回（内東かがわ市3回、さぬき市1回、綾川町2回、土庄町1回） 鑑賞者数：1,918人（市内外開催地656人）	デリバリーアーツ鑑賞者数	1,956人	1,918人	B	有	令和5年度は、依然として残る新型コロナウイルス感染症の影響により来場を事前申込制とし、来場者数を制限する施設もあったが、鑑賞者数についてはコロナ禍以前と近い水準となっている。 今後は、引き続き老若男女を問わない幅広い世代が鑑賞できるようなメニュー選定と、申込み団体及び鑑賞者の増加に努める必要がある。	文化芸術振興課
59	Ⅵ	1	(1)		文化芸術ホール自主事業	公益財団法人高松市文化芸術財団（補助）	文化芸術ホールにおいて、文化芸術の振興・普及のため、コンサート等各種事業を開催する。	○				開催回数：7公演	自主事業鑑賞者数	5,880人	4,362人	B	有	改修工事のため一部を除き施設を使用できないことからアウトリーチに注力し、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りながら事業を実施することができた。 令和6年度はリニューアルオープンし、また、サンポートホール高松が開館20周年となる節目の年になることから前年よりも内容の充実を図り、鑑賞者の増加に努めたい。	文化芸術振興課
60	Ⅵ	1	(1)		スポーツ教室	公益財団法人高松市スポーツ協会	市民の健康増進と体力向上を図るため、各スポーツ施設の特徴を活かした各種スポーツ教室を開催する。	○				103教室 37,266人	実施施設及び実施教室数	15施設 110教室	15施設 103教室	B	有	コロナ禍以前と比べ参加人数が回復していないものがあり、特に対象年齢の幅の小さい幼児対象の教室の参加者数が減少したのは、中止する前の参加者が対象年齢から外れてしまったことが原因と思われる。今後は広報活動を工夫し新規参加者の獲得に努めたい。	スポーツ振興課

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名	
								（別紙２）参照					指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価				
								ア	イ	ウ	エ									
61	Ⅵ	1	(1)		市民登山学校	市民 登山学校	健康維持、自然保護の啓発、登山知識・ 技術を習熟するため、講座・実技を開催 する。	○				延べ参加者数7月～3月 実技235人 講座360人	参加人数	生徒数 95名 毎月講座1回 実技1回	生徒数 51名 毎月講座1回 実技1回	C	有	講座内容の充実及び新型コロナウイルス感染症の 5類感染症移行に伴い、講座並びに実技への参加 率は高まった。 コロナ禍の影響で減少した入校者数を回復するこ とが課題であり、今後は、コミュニティセンター への募集案内等広く周知活動に努める。	スポーツ振興課	
62	Ⅵ	1	(1)		学校体育施設開放事業	市	市内全小学校体育施設（自主管理方式） と中学校は指定校方式で、学校体育施設 の開放を行う。			○		市民の体力づくりや健康増進を 始め、余暇の利用にも寄与す る、身近で有益なスポーツ施設 としての学校体育施設につい て、学校教育活動に留意する中 で開放を行う。	中学校開放数	16校	16校	A	有	令和5年度は、コロナ禍以前の利用者数には戻つ ていないが、前年度より増加し、概ね事業を実施 することができた。 課題としては、毎年施設修繕が必要な箇所を改修 しているものの、予算等の問題で対応できない部 分もあるため、必要性を十分検討し、計画的な実 施をしていきたい。	スポーツ振興課	
63	Ⅵ	1	(1)		二十歳のつどい開催事業	市	二十歳の方を対象に、大人になったこと を自覚し、自ら生き抜こうとする青年を 祝い励ますための式典を開催する。	○				場所：レクザムホール ※サンポートホール改修工事の 都合により、レクザムホールに て実施。 日時：R6. 1. 7 （1部開 催） 対象者数：4, 3 9 2 人 出席者数：2, 7 6 4 人	出席率	59.2%	62.9%	A	無	新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ たこともあり、出席率は昨年度を上回った。 令和6年度は3年ぶりに会場がサンポートホール 高松に戻るが、周辺環境が以前から変わっている こともあり、降車場や人の動線等について検討し ていく必要がある。	生涯学習課	
64	Ⅵ	1	(1)		P T A地域活動促進事業	市	地域ぐるみ、市民ぐるみの子どもの健全 育成を促進するために高松市P T A連絡 協議会への活動を支援する。			○			（評価不可）	（評価不可）	（評価不可）	評価 不可	無		生涯学習課	
65	Ⅵ	1	(1)		青年活動推進事業	市	青年活動の振興を目指し自主的に活動す る市青年連絡協議会への助成と、青年教 育振興のため協議会へ参画する。			○		市青年連絡協議会への運営支援 として補助金を交付。	会員数	10人	9人	B	無	会員数は前年度より減少した。新春子どもフェス ティバルへの出店をはじめ、多くの行事がコロナ 禍前と同様の形で実施することができた。令和6 年度は会員数増加に向けた方策を検討する必要が ある。	生涯学習課	
66	Ⅵ	1	(1)		子ども向けホームページ 「きっずの森」情報発信 事業	市	市内で開催される子ども向け行事や子ど もの学習に関する情報を、子ども向け ホームページ「きっずの森」にて発信す る。	○	○			市内で開催される子ども向け行 事や子どもの学習に関する情報 を、子ども向けホームページ 「きっずの森」にて発信する。 アクセス数を伸ばすために市内 の保育所、幼稚園、こども園及 び子育て支援センターにチラシ の設置を依頼した。	掲載内容の充実、 年間アクセス件数	101,617件	87,547件	B	無	市内の保育所等へチラシを設置するなど、アクセ ス数増加に向けた取組を行ったが、アクセス数は 前年度を下回った。 引き続き、広報高松や市のSNS等において、きっ ずの森について周知していく必要がある。	生涯学習課	
67	Ⅵ	1	(1)		生涯学習カレッジ事業	市	社会変化に対応した生活課題や環境問題 など現代的課題をテーマにした講座や、 高度で専門的な学習機会を提供する。				○	○	社会変化に対応した生活課題や 環境問題など現代的課題をテー マにした各種講座を開催した。	生涯学習センター開催 講座参加人数	4,445人	5,245人	A	無	昨年度より、参加者数が増加した。今後も、社会 情勢に応じた市民のニーズに応じた講座の開催を 検討する。	生涯学習センター
68	Ⅵ	1	(1)		コミュニティセンター同 好会事業	市	コミュニティセンター等において承認を 得た同好会に対して、定期利用の許可・ 利用料金の減免を行う。	○				コミュニティセンター等におい て承認を得た同好会に対して、 定期利用の許可・利用料金の減 免を実施した。	同好会登録団体数	1,043団体	1,005団体	B	無	前年度と同程度の同好会登録団体数であった。今 後も、引き続き同好会に対する減免制度を実施 し、地域における更なる生涯学習の推進に努め る。	生涯学習センター	
69	Ⅵ	1	(1)		コミュニティセンターだ よりの発行 （生涯学習関連）	コミュニ ティ協議会	各コミュニティセンターで発行している 「コミュニティセンターだより」におい て、コミュニティセンター等で開催する 講座・行事等の学習情報のほか、地域の 学校関係情報など多彩な情報を紹介す る。			○		各コミュニティセンターで発行 している「コミュニティセン ターだより」において、コミュ ニティセンター等で開催する講 座・行事等の学習情報のほか、 地域の学校関係情報など多彩な 情報を紹介した。	発行施設数	52施設	52施設	A	無	前年度と同数の施設において「コミュニティセン ターだより」で多彩な情報を紹介できた。今後 も、引き続き「コミュニティセンターだより」で 地域における生涯学習に係る情報の提供に努め る。	生涯学習センター	
70	Ⅵ	1	(1)		まなびCANだより「ま なびかんづめ」の発行	市	生涯学習センターで開催される講座等の 学習情報を紹介する情報紙「まなびかん づめ」を毎月発行する。	○				生涯学習センターで開催される 講座等の学習情報を紹介する情 報紙「まなびかんづめ」を毎月 発行した。	「まなびかんづめ」配 布箇所数	39か所	39か所	A	無	前年度と同様、39か所に「まなびかんづめ」を 配布できた。今後も、引き続き新たな配布先の開 拓を検討する。	生涯学習センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 （別紙２）参照				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウィ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名
													指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
								ア	イ	ウ	エ								
71	Ⅵ	1	(1)		まなびCANホームページ情報発信事業	市	まなびCANのホームページで講座の募集情報・施設情報・お知らせ・インターネット塾など各種生涯学習情報を発信する。	○				まなびCANのホームページで講座の募集情報・施設情報など各種生涯学習情報を発信した。	HPアクセス件数	193,356件	198,268件	A	無	昨年度よりアクセス件数は増加した。今後も、引き続きホームページで市民にとって興味を持ってもらえる各種生涯学習情報等の発信に努める。	生涯学習センター
72	Ⅵ	1	(1)		コミュニティセンター等パソコン講習会	市	生涯学習センターやコミュニティセンター等でパソコン講習会を開催し、情報通信の知識や技術・マナー等、情報活用能力の向上、新しい情報メディアの活用を推進する。				○	生涯学習センターやコミュニティセンター等でパソコンやスマホ、タブレットなどに関する講習会を開催し、情報通信の知識や技術・マナー等、情報活用能力の向上、新しい情報メディアの活用を推進する講座を開催した。	IT講座開催回数	256回	225回	B	無	昨年度より講座開催回数は減少した。今後も、DXの急速な進展等に対応した各種の講座を開催する。	生涯学習センター
73	Ⅵ	1	(1)		まなびCAN、Eメールサービス	市	広報たかまつの発行に併せて、希望者のパソコン・携帯電話にEメールにより、生涯学習センター講座情報等を配信する。	○				広報たかまつの発行に併せて、希望者のパソコン・携帯電話にEメールにより、生涯学習センター講座情報等を配信した。	まなびCAN、Eメールサービス登録者数	282人	305人	A	無	昨年度より登録者数は増加した。今後とも効果的な情報発信に努める。	生涯学習センター
74	Ⅵ	1	(1)		人権教育市民講座	市	コミュニティセンターで、地域住民を対象に、啓発資料や視聴覚教材を活用した人権教育市民講座を開催する。				○	延べ52コミュニティセンターで開催し、延べ592人の参加があった。	参加者数	551人	592人	A	有	限られた経費で市民に対し人権問題を考える機会を継続的に提供している。人権教育市民講座が各団体において毎年開催されるよう、引き続きホームページや他の情報媒体を利用して、情報提供や啓発を行っていく必要がある。	人権教育課
75	Ⅵ	1	(1)		スマイルフェスティバルinたかまつ	市、人権尊重都市たかまつ市民会議（共催）	人権意識の普及・高揚を図るため、人権をテーマとした公演やパネル展、幼児・児童生徒・保護者・企業等によるステージ発表などを内容とするイベントを開催する。	○				令和6年1月28日にレクザムホール（県民ホール）で開催された。ハンセン病回復者が暮らす国立療養所大島青松園入所者とゆかりのある歌手沢知恵さんによるコンサート、トランスジェンダー当事者によるLGBTに関する講演会など、ステージイベント、人権に関するパネル展示等を行い、人権意識の普及・高揚を図った。	参加者数	234人	441人	B	有	来年度以降、開催場所やイベントのあり方の検討に加え、内容の改善も検討する必要がある。	人権教育課
76	Ⅵ	1	(1)		人権教育研修事業	市	様々な人権問題の解決を図るため、幼稚園・こども園・小中学校・高松一高ごとにPTA等を対象とした人権・同和教育に関する講演会等を開催し、地域・保護者の人権意識の高揚を図る。				○	10市立こども園、19市立幼稚園、45小学校、22中学校、1高等学校で開催し、延べ22,895人の参加があった。	参加者数	15,499人	22,895人	A	有	全ての市立こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校でPTA、保護者等を対象とした講演会等を開催している。子どもに対する人権教育をより効果あるものとするため、今後も事業の継続が必要である。	人権教育課
77	Ⅵ	1	(1)		幼年・少年消防クラブの育成	幼少、少年消防クラブ連絡協議会（補助）	幼少年期から防災意識を高め、地域の安全・安心の担い手として育成するため、保育所・幼稚園・小中学校に幼年少年消防クラブの結成を推進する。				○	・幼年向け訪問型啓発事業 ・リーダー研修会 ・優良クラブ表彰 ・消防出初式への参加	消防クラブ結成数	幼年消防クラブ 52クラブ 少年消防クラブ 19クラブ	幼年消防クラブ 52クラブ 少年消防クラブ 19クラブ	A	無	結成数は維持できた。 各行事内容を更新・充実させたことで効果的な防災教育ができた。 今後もクラブ数の維持・増加を目指す。	予防課
78	Ⅵ Ⅰ	1 2	(1) (8)		菊池寛及びその作品から学ぶ「寛学」事業	市	郷土の偉大な作家「菊池寛」の作品に親しみ、先人の生き方に学ぶとともに、自己の生き方を考える「寛学」を実施する。	○	○			令和5年度からは学校の実情に応じて実施することとなり、事業化していない。	市内全小中学校で実施	小学校 全47校 中学校 全22校 100%		評価 不可	無	令和6年度も学校の実情に応じて実施することとなっている。	学校教育課
79	Ⅵ Ⅵ	1 1	(1) (2)		知的障がい者青年教室	市	知的障がいのある青年が、集団活動を通して、人とふれあい社会人としての知識・技能を修得するとともに、市民ボランティアが知的障がい者への理解を深める機会として教室を開設する。	○			○	年間8回（5、6、7、9、10、11、1、2月）実施。 《登録者数》 ●受講生：35人 ●ボランティア：58人	利用者の満足度	受講生：92.5% ボランティア：82.2%	受講生：100% ボランティア：85.5%	A	有	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、定員縮小の方法で実施した。コロナ禍で中止していた、昼食を再開するなど、活動内容の充実を図り、参加者の満足度は向上した。6年度は、定員の増加や活動内容の充実を図り、更なる満足度の向上を目指す。	生涯学習課

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙１） 参照			事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 （別紙２）参照				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染症の影響	成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ		エ	指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績				評価
80	Ⅵ	1	(1)	コミュニティセンター講座	市、コミュニティセン ター	コミュニティセンター等で、現代的課題をテーマとする講座や、親子ふれあい学習、趣味・実技講座等を開催し、地域住民に学習機会を提供する。	○				コミュニティセンター等で、現代的課題をテーマとする講座や、親子ふれあい学習、趣味・実技講座等を開催し、地域住民に学習機会を提供した。	参加者数	68,283人	73,190人	A	無	昨年度より参加者数は増加した。今後も、各地域のニーズに応じた学習機会を提供できるよう、各コミュニティセンターと情報共有を行う。	生涯学習センター	
	Ⅵ	2	(1)																
81	Ⅵ	1	(1)	まなびCAN・CSR教室	市	CSR（企業の社会的責任）という考え方にに基づき、生涯学習センターで、地元企業や個人事業者が生涯学習の観点から社会貢献を進める講座等を開催する。	○				CSR（企業の社会的責任）という考え方にに基づき、生涯学習センターで、地元企業や個人事業者が生涯学習の観点から社会貢献を進める講座等を開催した。	企業による社会貢献（CSR）講座の参加者数	450人	542人	A	無	昨年度より参加者数は増加した。今後も、企業や個人事業者に生涯学習における企業等の社会貢献を進める場として、講座を開催する。	生涯学習センター	
82	Ⅵ	1	(1)	他団体との連携事業	市	関係機関等と連携し、その活動の活性化を図るとともに、生涯学習を総合的かつ効果的に推進するために講座を開催する。	○			○	関係機関等と連携し、その活動の活性化を図るとともに、生涯学習を総合的かつ効果的に推進するために講座を開催した。	他団体との連携事業による講座の参加人数	576人	1,014人	A	無	昨年度より参加者数は増加した。今後も、公的機関等との連携を密にし、幅広く各種の講座の開催を検討する。	生涯学習センター	
	Ⅵ	2	(1)																
83	Ⅵ	1	(1)	自主学習スペース事業	市	学生や若者などの学習や居場所の確保の支援策として、貸室を自主学習スペースとして開放することにより、多様な学習ニーズに対応できる環境を整え、生涯学習の推進に資する。				○	学生や若者などの学習や居場所の確保の支援策として、貸室を自主学習スペースとして開放した	利用人数	2,892人	6,970人	A	無	令和4年度に試行的に実施した夏休み等期間中の開放を5年度から本格実施し、利用者が増加した。今後も、利用者のニーズに合わせた自主学習スペースの開放を実施する。	生涯学習センター	
84	Ⅵ	1	(1)	高松市夜間教室事業	市	義務教育を修了しないまま学齢期を過ぎた者や不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した者等を対象に、学びの場として高松市夜間教室を開室し、義務教育課程の内容について学習支援を行うことにより、市民の学び直しの機会の提供に資する。				○	開室回数：16回 受講生：全14名 学習内容：国語、数学（算数）、理科、社会、英語、美術 出席状況 ・16回（全て出席）：1人・15回：4人・14回：4人・12回：1人・10回以下：4人 満足度 ・大変満足：4人・概ね満足：5人 ・少し不満：2人	アンケート調査で満足していると回答した受講生の割合	78%	82%	A	無	昨年度より回数及び教科を増やしたことから、概ね満足いただけた。日常生活の中で役立つ実用的なトレーニングを求める意見があったことから、今年度の学習内容についても検討を行う予定としている。	生涯学習課	
85	Ⅵ	1	(2)	市民活動センター事業	市	市民活動センターにおいて、市民活動活性化のため、情報収集・提供、学習・研修、交流・コーディネート、調査・連携、災害時対応など各種事業を実施する。	○				・活動支援講座（NPO・ボランティア入門等）9回、107人 ・活動紹介講座（かみはの緑を学び楽しむ教室等）27回、631人 ・高松市まちづくり学校（地域づくりチャレンジ塾）6回、158人 ・みんなの学縁祭（最終報告会）1回、74人 ・みんなでみんなの（和い輪いかい）2回、242人	センター来館者数	13,622人	16,067人	A	無	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のあった前年度より利用者は増加した。 ・各種講座の実施（活動支援、活動紹介等）、NPO法人認証等事務に関する相談等を継続的に実施し、市民活動の活性化を図る必要がある。	男女共同参画・協働推進課	
86	Ⅵ	1	(2)	「ため池守り隊」市民活動支援事業	市民活動団体（補助）	ため池の自然環境を守り育むため、市民の自主的かつ継続的なため池の自然環境に関する美化・保全活動に対し、補助金を交付する。	○				12か所	実施か所数	14か所	12か所	B	無	12か所のため池において、草刈り、ごみ拾い等の活動が行われ、ため池の自然環境の保全に繋がった。 前年度まで3か所のため池で活動していた市民団体が規模を縮小し、活動するため池を1か所に減らしたため、全体の実施か所数が減少した。 実施か所数を増やすため、既存組織の継続と新規組織の参入を促進する。	土地改良課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目				R5年度事業内容 (実績)	評価指標				※新型コロナ ウイルス感 染症の影響	成果と 今後の課題	課名
								(別紙2) 参照					指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価			
								ア	イ	ウ	エ								
87	Ⅵ	1	(2)		観光ボランティアガイド事業	市観光ボランティア協会 (補助)	観光客等の利便を図るため、市内の歴史・文化・自然・物産などを紹介するボランティアガイドを育成し、ガイドを実施する。	○				・個々のガイドの自己研鑽と資質向上のため、全体研修（講演会参加、新人研修）を実施 ・全体研修とは別に部会研修（玉藻公園部会及び屋島山上部会）を現地にて数回実施	観光ボランティアガイド件数	1,628件	2,276件	A	無	ガイド件数については、前年度比約140%となっており、コロナ前の水準におおむね戻っている。ガイドの高齢化が進んでいるため、若年層ガイドの育成に向け、地元の大学や短大等と連携を図っている。	観光交流課
88	Ⅵ	1	(2)		まちかど漫遊帖事業	高松まちかど漫遊帖実行委員会 (補助)	歴史探訪・食・産業など高松の隠れた観光資源を発掘し、市民主体でまち歩きの観光コンテンツを企画・運営する。まち歩きガイドを実施し、観光客の誘致を図り、まちの活性化につなげる。	○				例年どおり春編及び秋編の2種類のまち歩きパンフレットを作成し、各市民ツアープロデューサーによるまち歩きの催行を実施した。	まち歩き参加率	93%	81%	B	無	昨年度に引き続き、本事業のような少人数を対象とした観光コンテンツの需要が高まっていることが伺えることから、引き続き継続的にツアー催行を行うとともに、内容のブラッシュアップを図ることにより、更なる参加率の向上を目指す。	観光交流課
89	Ⅵ	1	(2)		たかまつこどもサミット	教育委員会・高松栗林ライオンズクラブ	高松市内の小学校児童（4校程度）が各校で調査・研究した結果をテーマに基づき発表し、また、各校からの発表について子どもたちや大人が共に考え、話し合うとともに、提言を行う。	○				開催日：令和6年2月18日（日） 場所：生涯学習センター テーマ：SDGs～あなたもSDGs博士になろう～ 内容：意見交換、フードドライブ、ペットボトルキャップ回収、ブーススタンプラリー 各ブース内容：エコ工作、ごみ分別ゲーム、車いす体験、おくすりのお話	参加者数	約130人	約100人	C	無	学校の負担軽減のため、これまでの学校ごとの発表ではなく、個人体験型の実施方式に見直し、SDGsのあらゆる目標を考え、体験するイベントとして実施した。 類似事業等があることやこれまでの事業実施に伴い、事業の目的を一定程度達成していること等から、令和5年度の実施をもって事業を廃止した。	生涯学習課
90	Ⅵ	1	(2)		学習成果発表の場事業	市	市民や市民グループの学びの成果を発表することで、さらなる学習意欲の向上を図り、生涯学習の輪を広げるための講座を開催する。	○				市民や市民グループの学びの成果を発表することで、更なる学習意欲の向上を図り、生涯学習の輪を広げるための講座を開催した。	市民の学習成果発表の場としての講座開催回数	14回	17回	A	無	昨年度より開催回数は増加した。今後も、当該事業を市民等に広く周知し、新たな発表者を開拓する。	生涯学習センター
91	Ⅵ	1	(2)		よみきかせたいJr派遣事業	市	子どもの自主的な読書活動や社会貢献への意義や重要性を養う機会として、老健施設等での「よみきかせたいJr」、「キッズ読み聞かせ隊」による読み聞かせ活動を実施する。	○				「よみきかせたいJr」のおはなし会（春・夏開催）・「夏のおたのしみ会」・「冬のおたのしみ会」・「新春かるた大会」の計5回イベントを開催した。読み聞かせを行うだけでなく、イベント運営にも関わり、協働を図った。	派遣回数	3回	5回	A	有	昨年度よりも、Jrの活動の場をより多く設けることができた。 しかしながら、イベント当日に練習をしているので、より読み聞かせ等の質向上のため、イベント前に数回、練習の場を設けることを検討する。	中央図書館
92	Ⅵ	1	(2)		市民活動団体ネットワーク構築事業	市民活動団体等	各種市民活動団体や地域コミュニティ協議会等との交流会の開催など、団体同士のネットワーク構築を図る。	○				地域づくりチャレンジ塾 交流会 「みんなの学縁祭」 令和6年1月20日（土） 瓦町FLAG健康ステーション 参加者68人	交流会（意見交換会）参加人数	57人	68人	A	無	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のあった前年度より利用者は増加した。今後も、高松市まちづくり学校実行委員会を中心に、市民活動団体地域コミュニティ協議会関係者等、地域づくりに関わる多様な人たちとの連携・交流の場として、「みんなの学縁祭」を開催するなど、団体同士のネットワーク構築を図る必要がある。	男女共同参画・協働推進課
	Ⅵ	1	(1)																
93	Ⅵ	2	(1)		コミュニティセンター整備事業	市	コミュニティセンターの改築について、①老朽化に伴う改築②長寿化の観点に基づいた計画的な保全、この2点を柱とした中期整備指針等に基づき施設整備を行う。	○	○		○	【①屋島】 外構工事（完了） 【②十河】 外構工事（完了）	コミュニティセンター中期整備指針等に基づく整備箇所	2施設（屋島コミ、十河コミ）	-	評価不可	無	中期整備指針等に基づき、計画的な整備を行い、地域のまちづくり拠点づくりに努めることができた。	地域振興課
94	Ⅵ	2	(1)		生涯学習推進員養成研修	市	コミュニティセンター職員などの生涯学習推進員を対象に、生涯学習に関する知識・技能の向上を図るための講座を開催する。	○				コミュニティセンター職員などの生涯学習推進員を対象に、生涯学習に関する知識・技能の向上を図るための各種講座を開催した。	参加者数	391人	327人	B	無	昨年度より参加者数は減少した。今後も引き続き生涯学習推進員を対象とした各種講座を開催し、更なる知識・技能の向上につなげる。	生涯学習センター

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 （別紙 1） 参照				事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 （別紙 2） 参照				R5年度事業内容 （実績）	評価指標				※新型コロナウイ ルス感染 症の影響	成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和4年度 実績	令和5年度 実績	評価				
95	Ⅵ	2	(1)		図書館等資料整備事業	市	図書館サービスの向上、機能強化等を図るため、各種資料（図書・雑誌・新聞・A V 資料等）・情報の収集・提供を行う。 また、図書館に来館することなく、新しい生活様式に対応した形で読書を楽しむ電子図書館用の電子書籍も数を増やす。				○	○	図書館サービスの向上、機能強化等を図るため、各種資料（図書・雑誌・新聞・A V 資料等）・情報の収集・提供を行う。 また、図書館に来館することなく、新しい生活様式に対応した形で読書を楽しむ電子図書館用の電子書籍も新たに約500タイトル購入した。	資料整備費	63,139,703円	60,760,236	B	無	週 1 回行っている選書会議で、各館の利用状況に応じた選書を行ない、市民にとって魅力のある書架づくりに努めた。今年度電子書籍で、期間や貸出回数限定のもので、ライセンスが切れるものが多いので、ある程度コンテンツ数を維持できるようにする。また、市販のデータベースを活用することで、スペースや資料の汚破損の問題を削減する。	中央図書館
96	Ⅵ	2	(1)		移動図書館事業	市	移動図書館車3台で、図書館の利用が困難な校外地域88ステーションを巡回し、図書等の貸出サービスを実施する。				○		新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年、毎年利用者が減少している。 令和 5 年 5 月から 5 類感染症移行になったが一度離れた利用者はなかなか戻って来てくれず、新規の利用者も伸び悩んでいる傾向にある。	図書等の貸出数	99,657冊	91,339冊	B	無	新型コロナウイルスで減少した利用者を何とか繋ぎとめるため、ステーションの統廃合と巡回時間の変更を行い、利用しやすい時間帯に調整する。 また、新規に市主催のイベントにも移動図書館車を参加させ、利用者の確保を図る。	中央図書館
97	Ⅵ	2	(1)		レファレンスサービス	市	図書館所蔵の資料等を調べ、利用者からの問合せ調査の回答や学習に必要な資料の紹介等を行う。					○	図書館所蔵の資料等を調べ、利用者からの問合せ調査の回答や学習に必要な資料の紹介等を行った。	図書館に問合せのあったレファレンス件数	11,276件	12,821件	A	無	職員へのレファレンス対応件数のカウントを呼びかけたこともあり、件数は前々年度及び前年度を上回った。今後も市民の多様な質問や調査に対し、適切な対応ができるようレファレンスの強化に努めるとともに、利用促進のためのPRに努めたい。	中央図書館
98	Ⅵ	2	(1)		図書のインターネット予約サービス	市	図書館利用者カードの所有者を対象に、図書館ホームページからインターネット蔵書予約等を行う。					○	図書館利用者カードの所有者を対象に、図書館ホームページからインターネット蔵書予約等を行った。川島コミュニティセンターにおいて、新しく予約図書の取次サービスを開始した。	インターネットでの蔵書図書等の予約件数	289,050件	282,008件	B	無	令和 5 年 4 月に、勝賀、仏生山、まなび館に加え、新たに、川島コミュニティセンターにおいて、予約図書等館外受取サービスを開始した。市内の総合センターが設置されているエリアを網羅することができ、利便性の向上を実現した。	中央図書館
99	Ⅵ	2	(1)		センター利用促進事業	市	幅広い年齢層の市民が気軽に利用できるようコンサートや映画上映会のほか、関心の高い趣味・教養分野の講座を開催する。				○	○	幅広い年齢層の市民が気軽に利用できるよう映画上映会のほか、健康や金融など関心の高い趣味・教養分野の講座を開催した。	市民の関心の高い講座や映画会の参加者数	1,427人	1,586人	A	無	昨年度より参加者数は増加した。今後も、幅広い年齢層の市民が気軽に参加しやすい講座の開催を検討する。	生涯学習センター
	Ⅵ	1	(1)																	
100	Ⅵ	2	(1)		本のソムリエ派遣事業	市	図書館司書（本のソムリエ）を派遣し、図書館の仕組みや便利な使い方、本の上手な探し方などを周知する。	○					団体等からの要請に応じ、図書館司書によるレクチャーで図書館を知り、本に親しんでもらう企画として、本のソムリエ（本の専門知識を持った職員）の派遣を実施する。	ソムリエの派遣回数	5回	6回	A	無	コロナの緩和を受け、派遣回数が増加した。希望されるメニューとしては、“ふるさと文学を知ろう”が多くみられる。 また、今年度は障がい者向けのソムリエも 2 回行い、当館障がい者サービスの周知に繋がった。 より図書館を知っていたいき、図書に興味を持ってもらえるいい機会なので、今後もソムリエ派遣事業について周知を行いたい。	中央図書館
	Ⅵ	1	(1)																	
101	Ⅵ	2	(1)		図書館図書市民一人あたり貸出冊数（年間）	市	－					○	市民の教育・文化の情報拠点として市民に役立つ図書館づくりを目指し、多くの方に利用していただいた。	図書館図書市民一人あたり貸出冊数（年間）	5.9冊	5.6冊	B	無	貸出冊数は前年度比マイナスとなった。今後も市民の教育・文化の情報拠点として市民に役立つ図書館づくりを目指し、利用促進を図る。	中央図書館

※№15保育所・幼稚園等への芸術系派遣事業については、令和6年7月30日付けで4年度の実績に誤りがあったとの報告を受けたことにより、修正しております